

今日の富士山

つかはら にはち

今日の富士山

昨年、一昨年と自治会の役員を引き受けた関係で好意にして戴いている農家から稲作をやってみないかと誘われ、これまでに全く経験の無い稲刈りの体験をさせてもらった。が、小生に適うことではなかった。

考えて見れば借り受けている畑の世話のみで手一杯の身、丁重にお断りさせて戴く他はない。

釜を片手に慣れない姿勢が続き、休憩時間に尻を畦に着けることもままならない。思わず身体を横にする、稲穂の間を透して見える富士の山。数日のうちには白い冠を着けることになる。

日本人が抱いている富士山の山頂には必ず白い雪がある。車窓から見る白い富士山には感動すら覚える。

松竹映画のオープニングロゴの富士山も、暴れん坊將軍のタイトルバックの富士山も雪が有ってこそ象徴的な役割を果たしている。広重が描いた浮世絵の東海道五十三次に書かれている富士山にも雪がある。北斎の描いた浮世絵も、赤富士を除けばやはり雪が描かれている。

富士山の標高の高さやその形の美しさも気を引くものではあるが、やはり雪が有ったの感動であり、心踊るものではないのだろうか。

白い産着、白い花嫁衣装、黄泉の国への旅立ちも白。日本人のDNAが白に清らかさを感じ、神聖な色として崇めるのであろう。

しかるに昨今は何故か、白衣の天使が淡いピンクやブルーの衣装に変化している。紛れもなく日本人である小生だが、必ずしも白色に拘ることなく天使に胸踊るのは何故であろうか。